

神川小学校自己評価 職員中間報告 【アンケート実施日：令和4年7月】 評価平均 A：3.0以上 B：2.4～2.9 C：2.3以下

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 自ら考え、友と協働し合って問題を解決する子ども 2 友と認め合い、支え合って、互いを大切にしよう子ども 3 自ら心身の健康を求め、目標に向かってがんばりぬく子ども

今年度の重点目標		評価平均	成果と課題		
①	「MIMの研究」特殊音節の読み書き指導 その子にあった指導のあり方	2.3 C	①上田市で推奨している指導法であり、低学年の読みの定着が進んでいる。低学年担任が主となるので、MIMについて高学年職員も含め、全職員で共通理解していく必要がある。低学年と1つの研究部会で取り組んでいるため、全職員に広げていく機会をとる。		
②	「児童理解の充実」児童理解の日を設け、全職員で全児童に関わる	3 A	②担任だけでなく、全職員が関わっていくことをねらいとして、月に1回じっくりと時間をかけて話し合う場を設けている。他学年児童の情報共有の場となり、担任が一人で抱え込まないように今後も定期的に開催していく。また、より良い開催方法をさらに探っていく。		
③	「ふるさと学習 郷育」神川に学ぶ、神川で学ぶ 体験的活動の充実	2.6 B	③ふるさと学習では、総合的な学習の時間「かなえの時間」に、5年米作りや6年アサギマダラを呼ぶためのフジバカマ栽培、4年グラジオラス栽培で地域の方に講師としてお招きした。職員も、研修日を設けて地域散策に出かけ、ふるさと学習に生かせるものはないか探求した。クラスの学習に生かしていく。		
学校教育	学習指導	授業導入の工夫	①子どもたちが一時間の見通しをもつことができているか。 ②子どもたちは興味関心を持って授業に臨んでいるか。	2.8 B	○子どもの疑問を学習問題として設定したり、前時の学習から学習課題を明確にするように心がけている職員が多い。 ●子どもたちが身近に感じられる内容を取り入れるなどの工夫を行っているが、それだけでは、なかなか子どもたちが意欲的に活動することは難しく、さらなる工夫が必要だと考えている。 ●全員が見通しをもてるまでの学習問題、学習課題、板書を目指していきたいが、全員の達成となると、未達成の部分がある。
		授業展開の工夫	③子どもの意欲・意識を大切に授業を行っているか。 ④体験活動や操作活動等の五感を働かせる活動を位置づけているか。	2.8 B	○視覚に訴えた教材提示を行う、1人1台パソコンの活用、身の回りとの関連を話題にしながら授業をしていく職員が多い。単元を終えた後に、「子どもたちにどんな力をつけたいのか」「どんな思いをもってほしいのか」ゴールを明確にして教材研究を行っている。 ●コロナ下で難しい面もあり、ペアやグループの話し合いを深めさせたいが活動の制限もあり、思うようにいかない。校外へ出て、学ぶことが大切にしていきたい。
		授業終末の充実	⑤自分の学びをふり返ったり、友だちの学びを認め合ったりする場を設けているか。	2.6 B	○「毎時間必ずふり返りを全体やペア・グループで共有している」という職員もいる。終末に、ふり返りを意識して時間をとっている。 ●振り返りの時間を大切にしようと考えているが、時間の確保ができず、ゆとりがなくなってしまうがち。個を大切に、ていねいに学習を見ようとすればするほど、1時間の終末が忙しくなってしまう。見通しを大切にしていく。
	生活	あいさつが響き合う	⑥あいさつの声が校内・校外で響き合う学校に向けて取り組んでいるか。	2.7 B	○神川コミュニティースクールでみなさんからあいさつを褒められている。良い傾向が見られる。今後も意識して声掛けしていきたい。 ●あいさつをすると、返すことができる子どもが多い。しかし、自分からはあいさつをすることができない子どもも多数いる。
		早期発見早期対応の生徒指導	⑦学年・学校として、職員が連携して子どもたちの課題に取り組んでいるか。	3.2 A	○学年会での情報交換、月に1度の児童理解があり、情報共有できている。また、職員室の棚に一人ひとりのファイルが保管されているので、過去の情報も見ることができ、経緯を見ながら指導につなげている。 ●月に1度の情報交換会は時間が確保できる一方で、タイミングを逃してしまう可能性もある。緊急を要する場合には、臨時で情報交換を行ってきたい。
	学級経営	学級づくり ・ 仲間づくり	⑧道徳や特別活動の時間で、子どもと教師間・子どもと子ども間の信頼関係を構築する活動が行われているか。 ⑨子どもが自分を見つめ直したり所属感を高めたりできるような相談・面接活動を行っているか。 ⑩体の成長に目を向けたり、積極的に体を動かしたりするような環境づくりや子どもたちへの働きかけを行っているか。	3 A	○「友だちのいいところ調べ」「帰りの会でのいいところ探し」「子どもたちの自主的計画のレク」など、学年やクラスごと工夫した学級づくり・仲間づくりを実践できている。道徳の充実、行事のふり返りの中でも友だちの良さに目がいくようにしている。 ●なかよし月間が秋のみとなっている。春に全校としての位置づけがないので、来年度は位置づけていきたい。
学校運営	地域との連携	適切な情報発信	⑪学校・学年・学級の指導方針や様子について、学級懇談会やお便り、HPなどでわかりやすく伝えているか。	3 A	○学年の様子は、学年通信に写真をのせながら伝えることができた。授業参観ができなくて残念。すべて中止ではなく、学級懇談会をオンラインでできたことが良かった。保護者にも操作していただくことで、オンライン授業の実現にもつながった。 ●学級懇談の内容を伝えきれていない部分があるため、2学期以降改善していく。勤務時間内におたよりを作る時間を確保できていないため、勤務時間外に作成をしてもらうしかなく、なかなか出せていないクラスもある。
		P T Aとの協力	⑫P T Aと協力しながら、よりよい学習活動や学習環境作りをめざした活動が行われているか。	2.7 B	○コロナ下で、P T A活動も制限されているが、各専門部ごと、できることを実施しようとしている。総合的な学習の時間「かなえの時間」で、保護者に木工の講師になってもらったり活動の柱となってもらった。 ●コロナ下で、制限されていることが多く、簡単にお呼びできない困難さがある。母親文庫については、1学期は感染予防のため読み聞かせが中止になった。2学期以降は、感染予防対策をとりながら、活動を始めている。
	地域との交流	⑬神川小ボランティア・学習ボランティアの運営がスムーズに行われているか。	2.4 B	○4年グラジオラスの花作り、5学年のお米作り、6年アサギマダラのお話、日本語教室やおぞらでのボランティアなどに来ていただいた。コロナ下でもご協力いただいたことに感謝していきたい。クラブ活動でも外部講師をお願いできている。 ●コロナ下で、これまでよりもお呼びしにくくなっている。人数を減らす、オンラインなど、新たな方法を探っていく必要がある。	
	研修	授業改善の研修	⑭「明日もきたくなる学校」の具現に向け、授業力向上のための研究や研修が実践できているか。	2.7 B	○UD部会、ICT部会、教材開発部会を立ち上げ、全職員が公開授業を行い、お互いの授業を見合っ、意見交換することで日々研修を行えている。 ●日々の業務の忙しさが、参観してもらっていた意見を十分に生かされていない。